

平成29年8月1日

会員各位

協会だよりー296(8月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)
触媒資源化協会

トピックス：

- **第233回月例会(見学会)の開催・スーパーエコタウンの見学 (バス利用)**
開催日：平成29年9月7日(木)10:30～15:30 (見学)
バス出発場所：東京国際フォーラム前9:30 (出発) 道路向いのビルは新東京ビル
見学先：1. 中間貯蔵・環境安全事業(株) (中央防波堤内側) 10:30～
昼食：「テレコムセンタービル内」21F 展望レストランで12:00～
2. (株)リーテム (城南島地区) 13:10～
3. 処分場見学 (中防合同庁舎10階回廊より) 14:45～
懇親会：新橋亭新館 (新橋) にて17:00～
備考：見学先より**35名定員**となっています。お早めに申込を。



さっぽろ羊ヶ丘展望台にて・クラーク博士(BOYS BE AMBITIOUS)

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 会員会社よりの連絡
- 三. 事務局より (八月度の予定)
- 四. 【雑学】江戸を歩く
(両国から亀戸へ)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー295 (7月号)** をメール&郵便で送信 (6/29)
- ② **第232回月例会の開催**
日 時：平成29年7月19日 (水) 14:30～19:30
場 所：如水会館 (神田一ツ橋)
講 演：金野 衛殿 (金野環境・品質コンサルティング 代表)
青柳あさ子殿 (経済産業省産業技術環境局環境指導室課長補佐)
- ③ **第233回月例会の開催準備・幹事会**
日 時：平成29年7月27日(木)15:30～16:30

場 所：BISTATION内 (新事務所所在地)
 出 席：第233回月例会の幹事会社と担当運営委員、専務理事
 [予定事項]

① **第2回運営委員会**

日 時：平成29年8月9日 (水) 16:00~17:00
 場 所：堺化学工業(株)東京支店 (友泉岩本町ビル)
 議 題：234回月例会 (一泊研修会) の選考等
 出 席：運営委員及び234の幹事会社、専務理事

② **第233回月例会(見学会)の開催・スーパーエコタウンの見学 (バス利用)**

開催日：平成29年9月7日(木)9:30~15:15 (見学) 17:00~ (懇親)
 バス出発場所：東京国際フォーラム前9:30 (出発) 道路向いのビルは新東京ビル
 見学先：1. 中間貯蔵・環境安全事業(株) (中央防波堤内側) 10:30~
 昼食：「テレコムセンタービル内」5F展望レストランで12:00~
 2. (株)リーテム (城南島地区) 13:10~
 3. 処分場見学 (中防合同庁舎10階回廊より) 14:45~
 懇親会：新橋亭新橋新館にて17:00~19:00
 見学定員：見学先より**35名まで**となっています。

2. 会員会社よりの連絡

【本社の移転】

- アイアールユニバース株式会社
(7/3より)

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-3-7 浅田共同ビル4階
 TEL03-5847-6015 FAX03-5847-6016

3. 事務局より (8月度の予定) 8月出勤予定：11日間、赤・個人予定あり。

日	月	火	水	木	金	土
7/30	7/31	1	2	3	4	5
× (M)	×	○	×	○	×	× (M)
6	7	8	9	10	11	12
×	×	○	運営委員会	○	山の日	× (M)
13	14	15	16	17	18	19
×	×	○	×	○	×	×
20	21	22	23	24	25	26
×	× (G)	○	×	○	×	×
27	28	29	30	31	9/1	9/2
× (M)	×	○	×	○	×	×

【雑学】江戸を歩く／両国から亀戸へ（回向院・吉良邸跡・亀戸天神など）



本日散策スタートの起点は JR 両国駅です。ご存知と思いますが、両国の名称は、万治 2 年（1659）武蔵国と上総国の二国に架けた両国橋（隅田川）に起因しています。戦後の昭和 22 年（1947）、東京都の区部統合が行われ、北部の向島区と南部の本所区が一緒になり墨田区が誕生しました。両国駅周辺は、この本所地区に当たります。『郷土資料事典・東京都』によりますと、…戦国期から本所地区は人煙もまれな湿地帯であった。この地が開発されたのは、明暦の大火（1657）以後のことである。万治 2 年（1659）から、幕府は本所地区の縦川・大横川・横十間川などの河川開削をすすめ、低湿地帯の埋め立てを行い、江戸市内の武家屋敷・町屋・寺社などをこの地区に移転させた。この時から、南部地区は武家屋敷を中心とした住宅・商業地区として発展…とあります。明暦の大火では 10 万人余の死者が有ったそうで、江戸の防災都市計画が本所地区の開発に繋がったといえそうです。なんと本日の訪問する場所は JR 両国駅を中心とした、ほぼ半径 500m 内外の所にあり、歩く距離が短くて済みそうです。さすがに亀戸天神は両国駅より電車で亀戸駅まで行きましたが。さて本題に戻り散策したコースを紹介いたします。

両国駅…回向院…両国橋…大高源吾句碑…吉良上野介邸跡（本所松坂町公園）…勝海舟生誕地…芥川龍之介文学碑…両国駅（昼食）…東京都慰霊堂…江川太郎左衛門屋敷跡…北斎美術館（外から）…両国駅（電車）亀戸駅…亀戸天神…普門院…亀戸駅

本日は市街地散策ですから、歩道でも対向の歩行者に気をつけ、当然車には最大の注意が必要です。駅前にて参加者の点呼を受け、散策の資料を受取り、最初の訪問先・回向院へと向かいます。

《回向院》墨田区両国 2-8

回向院は明暦 3 年（1657）正月の明暦の大火の焼死者 10 万 8000 余人の菩提を弔うために建立されました。

また江戸時代の寛政 3 年（1791）には、ここで勧進相撲が行われ、天保 4 年（1833）

からは年 2 回の定場所は回向院と定まり、明治 42 年（1909）回向院境内北に建設した国





技館完成まで続きました。大相撲との関わりは強く、境内には力塚があり、庶民の味方といわれた義賊・鼠小僧次郎吉のお墓も有ります。

力塚は昭和 11 年 (1936) 歴代相撲年寄慰霊のため建立された石碑です。

鼠小僧次郎吉のお墓の前にはお前立ちという欠けた石が置いて有りますが、受験や勝負事のお守りに石片を持って行く人が多いそうです。

《吉良上野介邸跡 (本所松坂町公園)》墨田区両国 3-13-9



この公園は忠臣蔵で広く知られる、赤穂義士の討入りが有った吉良上野介義央の上屋敷跡です。当時吉良邸は約 8,400 平方メートルの広大な敷地を占めていました。昭和 9 年 (1934) 3 月地元町会の有志が、遺蹟を後世に伝えようと、旧邸の一角 (100 平方メートルほど) を購入し史跡公園として東京市に寄付したものです。昭和 25 年 9 月、墨田区に移管されました。(本所松坂町公園由来より) 公園入口には赤穂義士遺蹟 吉良邸跡の石碑が建立されています。

《勝海舟生誕地》墨田区両国 4-25



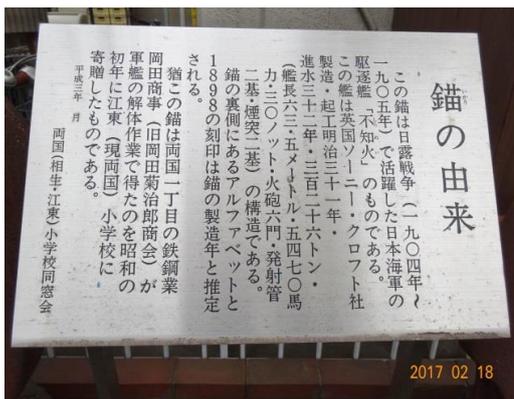
勝海舟生誕地は両国小学校、隣の小公園（両国公園）の中に有ります。ここに勝海舟の父、小吉の実家である男谷家がありました。勝海舟は幕末に海軍奉行として、また西郷隆盛との会談で江戸城無血開城を果たし、江戸を火の海から救ったことが有名です。しかし裏話としては、会談決裂の折には隅田川（大川）の東、現江東区、墨田区方面に江戸住民を避難させて、橋を落として、市中に火を放って官軍の侵攻を阻止しようと準備したそうです。あくまでも裏話では有りますが。

《芥川龍之介文学碑》墨田区両国（両国小学校協）

本所は龍之介の幼児時から少青年期までの大事な時期を育んだ場所で、明治 31 年、回向院に隣接する江東尋常小学校付属幼稚園に入園、翌年同小学校（現両国小学校）に入学しました。明治 38 年（1905）府立第三中学校（現両国高等学校）に入学しました。この文学碑は龍之介の代表作「杜子春」の一節を引用したものです。この両国の地に生育し、両国小学校で学んだ近代日本を代表する作家芥川龍之介の文才を偲ぶものとして、両国小学校創立 115 周年の記念事業として平成 2 年 10 月に建立されました（案内板参照）。



《日本海軍の駆逐艦「不知火」の錨》墨田区両国（両国小学校協）



《芥川龍之介生育の地》墨田区両国 3-21-4

生育の地は、芥川龍之介の文学碑（両国小学校協）より両国駅に戻る途中、スーパーAEON の横露地を入ったところに所在します。母親の病気により、母の兄、芥川道章に引き取られ、13 歳のとき、芥川家の養子になりました。明治 43 年（1910）19 歳で新宿に移転するまで過ごした両国界隈は龍之介の精神的風土形成しました（案内板参照）。





両国駅に戻った私たちは自分たちの好みで、駅構内にある店で食事となりました。土曜日の両国駅構内は、同年輩の男女で溢れかえってどの店も混み合っています。

先輩の Kさんと「創業 明治三十五年 日本ばし やぶ久」に入り、親子丼セットを注文、味はまあまあでしたが、1,500円は昼食としては、ちと高めでありました。場所柄仕方ないところであろうか？

《東京都慰霊堂》(横網町公園) 墨田区横網 2-3-25



横網町公園は元陸軍被服廠のあったところです。大正12年9月1日の関東大震災の際、ここに避難した約3万5000人もの人が焼死しました。これらの人を含め約6万人に及ぶ震災犠牲者申うため、昭和6年(1931)6月、震災記念堂として建立しました。第二次大戦による東京大空襲により殉難者は10万人にも上りました。この犠牲者も合祀して東京都慰霊堂と改めました。毎年3月10日(戦災記念日)と9月1日(震災記念日)には慰霊祭が行われます(案内板参照)。

《野見宿禰神社》墨田区亀沢 2-8-10



かつて、この東側には高砂部屋が有りました。明治18年(1885)に親方の高砂浦五郎が津軽上屋敷の跡地であったこの地に、相撲の神様として知られる野見宿禰を祀ったのが、この神社の始まりです。

境内には昭和27年(1952)に相撲協会によって建てられた歴代横綱石碑があり、その一基には初代の明石志賀之助から四十六代朝潮太郎までの名前が、もう一基には第四十七代柏戸剛以降の名前が刻まれています(案内板参照)。

《江川太郎左衛門屋敷跡》 墨田区亀沢 1-3

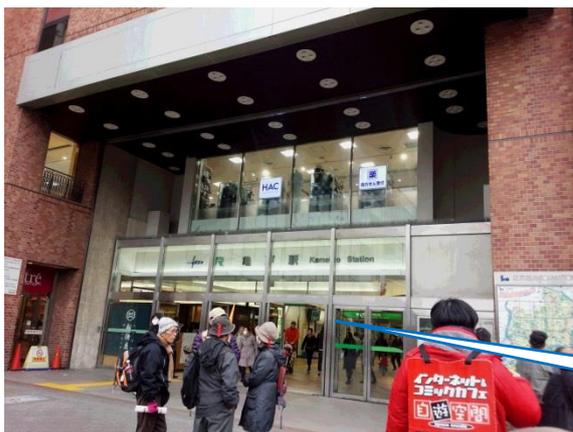


葦山と江戸に屋敷を構え、葦山代官・江川太郎左衛門英龍は天領（伊豆・静岡・相模・武蔵・甲斐）の管理を広く任されていました。海防に目覚め、江戸湾にお台場の建設を建議し任され、また大砲を鑄造する為の反射炉を葦山に建設したり、農兵隊の設立を上申したりと徳川幕府の技術官僚として幕末を駆け抜け、才能を十分に発揮した人物でした。しかし残念ながら反射炉の完成は見ることなく、この江戸屋敷で亡くなりました。



両国地区での見学は終了して、次は亀戸天神へのお参りです。JR 両国駅に向う途中に現代アート美術館のような外観がモダンな葛飾北斎美術館があります。今回は外観を眺めるだけで通過、見学はパスするとのことでした。後日ぜひ見学したい場所と思います。





両国駅より総武線二つ目が亀戸駅です。亀戸天神へ行く為、JR 亀戸駅北口に再集合です。亀戸駅北口はアトレ亀戸という大型商業ビルの一階で、駅前のロータリーは都営バスの発着場となっています。亀戸天神行きのバスも有りましたが、歴歩会は歩くのが本来の目的、会長を先頭に1.2kmほど黙々と歩きます。

アトレ亀戸ビル (亀戸駅北口)

《亀戸天神社》江東区亀戸 3-6-1

大宰府天満宮の神官だった菅原信祐 (菅原道真公の末裔) が「飛梅」の木で道真公の像を彫り、初国行脚の末、寛文元年 (1661)、本所亀戸村にあった小さな社にこの像を奉祀したのが始まりといわれています。翌年、天神様を崇敬する四代將軍家綱が、現在の場所に土地を寄進、太宰府天満宮の社に倣って社殿、楼門、回廊、心字池、太鼓橋などを創建しました。



「東風吹かば 匂いおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春を忘れそ」京の邸宅にあった梅が主 (道真) を慕って京都から大宰府に飛んできて、根を下ろしたという「飛梅」の伝説が今なお残っています。(墨田区観光協会パンフ (梅暦) 参照)



天神社の境内からは間近にスカイツリーも望まれ、境内は観梅の人々でいっぱいの様子、皆さん好みの梅ノ木をバックに家族写真を撮っているので、こちらは梅の撮影も順番待ちです。

おや此処・心字池脇にも芭蕉さんの句碑がありました。



「しばらくは花の上なる月夜かな」この句は人気句の様で、神社境内に桜や梅、紫陽花など花自慢の箇所数多く見られます。昨年、歴歩会で訪れた渋谷の金王八幡宮にも有りました。亀戸天神の句碑は芭蕉百年忌、享和2年(1802)に建立されています。



境内ではお猿さんの芸が行われ、集合時間までお猿さんの芸当を楽しむメンバー。

《普門院》江東区亀戸

大永2年(1522)豊島郡三股城主千葉自胤(よりたね)が城内(現荒川区)に創建、福聚山(ふくしゅさん)善応寺普門院と号したのが起こりです。元和2年(1616)現在地に移りました。この移転の時、当寺の梵鐘が誤って隅田川に落ちてしまいました。このため鐘ヶ淵(墨田区)の地名が出来たそうです。境内墓地に「野菊の墓」で知られる伊藤左千夫の墓があります(郷土資料事典・東京都参照)。

映画で一番初めは1955年、木下恵介監督、有田紀子主演の「野菊の如き君なりき」でありましたか。



【文責：専務理事】